



frankfurt

知られざる緑の都市

河内秀子=文 峯岸進治=撮影
Text by Hideko Kawachi Photo by Shinji Minegishi

街を一望できる展望台「ゲーテ塔」からの眺め。眼下にはブナやカシの木の森が広がる。



マイン川沿いに並ぶモダンな高層ビル群が印象的なフランクフルト。しかし実は、この街は豊かな自然に囲まれているのをご存じだろうか。ハーブのソースに季節を感じ、リンゴの芳香が故郷の香りだと語る人たち——。また見ぬ、緑のフランクフルトを探しに広大な緑地帯「グリーンベルト」を巡った。

州最大級のハブ空港があるだけでなく、欧州中央銀行が拠点を置く金融の街、フランクフルト。ドイツの街には珍しく200mを超す高層ビルが立ち並ぶ。灰色のコンクリートジャングルというイメージが強かったが、中心部から少し離れてみると意外なほどに緑が多いことに気づく。街の総面積の三分の一にある約800haの緑地が、約70kmにわたって街を囲んでいるのだ。この緑地帯は、今年制定から30年を迎える「グリーンベルト法」という法令によって守られている。人口が増え、住宅や交通網の拡大など開発が加速していた1980年代に、次の世代に緑を残さない。

欧

れば、と立ち上がった人がいた」と

フランクフルト市環境局長ペーター・ドーマルムートさんが成り立

ちを説明してくれた。

一九九一年にグリーンベルト法が定めた内容はとてもシンプルだ

という。「現在グリーンベルトとして定めた緑地帯は保護する。万が一開発せざるを得ない場合には、市

内に同じ広さの緑地を造らなければならぬ」というものだ。そのため、三〇年間都市開発が進んでも

グリーンベルトは減ることはなく、現在、街の緑地の割合は少しづつ増加傾向にある」という。一九九五年には、グリーンベルトは景観保全地域に指定され、より行き届いた手入れがされるようになった。

「グリーンベルトが目指している

ことは、今も三〇年前と変わりません。市民の生活の質を向上、維持させることです」

特にコロナ禍で、身近に自然があることの大切さを感じた人は多く、さらに緑を増やしていきたい

とドーマルムートさんは意気込む。

フランクフルトの人口は増え続けているが、住宅数を増やすことだけが街づくりではない。グリーンベルトで出会う人たちの明るい

表情に、その答えが表れているようを感じられた。

グ

リーンベルトとして保護されている「緑」の内容は多彩だ。内訳は、その半分が森で、約二割が農地、その



珍しいタンデム自転車で颯爽と走る2人組。市内にはレンタルサイクルサービスも。

AGORA vol.359 Step into the Green City



次の世代に伝えたい、豊かな緑



- 1 マイン川を中心にぐるりと街の周りに広がるグリーンベルト。川岸には並木や芝生も多く気持ちがいい。
- 2 グリーンベルト内にある、欧州でも珍しい内陸砂丘ニュヴァーンハイマー・デューネン。希少な植物相もあり自然保护地区に指定されている。
- 3 グリーンベルト内のサイクリングルートを表す道路標識。これを目印にして目的地へ向かう。
- 4 アメリカ軍が1992年まで飛行場として使っていた場所が、現在では緑溢れる市民の憩いの場に。
- 5 グリーンベルトのマスコットキャラクターを手にした、市環境局長のドーマルムートさん。

サイクリング
ルートで
出合うアート



AGORA Special vol.359 Step into the Green City

サイクリングで巡る緑の街



まずは今春リニューアルオープンしたゲート塔から街を一望すべく一九六段の階段を上って、準備運動。既に息切れしそうだが、高低差が激しいのはここだけで、ルート自体は勾配が少ないので、のんびり風景を楽しみながら走ることができる。サッカースタジアムがあるか

りてみた。グリーンベルトを一周するようにルートが整備されているが、特に人気があるのはマイン川の左岸に広がる森のなかを抜け、ドイツ木組みの家街道の街でもあるヘーヒスト地区へと向かうルートだという。

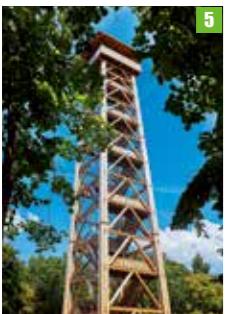
と思えば、畑もあり、途中では放牧中の羊に遭遇。牧草地や公園、競技場など多様な緑がグリーンベルトを形成していることを実感する。大きく育ったブナやカシの木が作る日陰が、汗ばんだ体になんとも心地よい。



サイクリングルートの途中には「おもしろアート」と題された一五個のオブジェがある。これは市内にある風刺画博物館とのコラボレーションで生まれたものだ。地図を見つつ、ちょっと隠れたところにあるアートを探しながら、寄り道するのも楽しい。広い平原にぽつりと立ち、絡まった枝を茂らせている木には、一九世紀にフランクフルトの医師が描いて世界的なベストセラーとなつた絵本『もじやもじやペーター』の名前が付けられていた。

平原を抜けると、目の前にマイン川が広がった。向こう岸に渡るフェリーには自転車を積み込むこともできる。市壁の門を通ると、そこはヘーヒスト地区の旧市街。緑の間に立つパステルカラーの木組みの家はなんともロマンティック。また一つ知らなかつたフランクフルト出会い、自然と笑みがこぼれてきた。

平野を抜けると、目の前にマイン川が広がった。向こう岸に渡るフェリーには自転車を積み込むこともできる。市壁の門を通ると、そこはヘーヒスト地区の旧市街。緑の間に立つパステルカラーの木組みの家はなんともロマンティック。また一つ知らなかつたフランクフルト出会い、自然と笑みがこぼれてきた。



1 芝をむしゃむしゃ、景観保護のため放牧されている羊たち。
2 マイン川を越えヘーヒスト地区に渡るフェリー。自転車も積み込み可能。
3 マイン川右岸のニッダ川沿いのサイクリングルートも緑が深く人気だ。
4 中央駅の観光案内所でグリーンベルトの地図を入手してサイクリングへ。
5 高さ40mを超える木製のゲート。サイクリングルートの起点の一つ。



数多くの木組みの家が残るヘーヒスト地区の旧市街。中世の街並みを彷彿とさせる。